

ぶらり

豊洲

街を愛する
仲間で
作りました!



Toyosu

ミニコミ誌「ぶらり豊洲」発刊に寄せて

公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 文化センター管理事務所長 松村浩士

この「ぶらり豊洲」は江東区民の有志と豊洲文化センターが協働で地域の魅力を発信する地域のミニコミ誌です。

参加者が企画・運営に携わり、アイデアを出し合って、事業を提供する文化センターとともに協働で成果を生み出す「区民協働事業」として7年目、ミニコミ誌の発行は4冊めとなります。

今年は5月に参加者を募り、6・7月に記事となる案を話し合い、8月に取材をいたしました。特に今回、「豊洲の緑」「豊洲でサイクリング」「豊洲の人」と大きく3つの特集にし、グループに分かれて取材しました。変貌著しい豊洲の街を参加者のみなさんが区民ならではの視点でとらえ、豊洲が持つさまざまな魅力を紹介しています。

はじめて豊洲に来た方にも豊洲にお住いの方にも、この街をぶらりと歩くガイドとしてお使いいただければ幸いです。

最後に、本事業の講師をお引き受けいただいたリビングくらしHOW研究所事業部の外山由紀代さんと向山奈央子さん、また取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



グループに分かれて話し合い



和気あいあいのキックオフランチ会

ミニコミ誌「ぶらり豊洲」ができあがるまで

- 6月 企画会議。コンセプトとターゲットの確認
- 7月 グループ分けと担当決め。
講義の後、キックオフランチ会も
- 8月 各自で取材を実施
- 9月 書いた記事や写真が「初校」に。
校正も行いました
- 10月 最終確認と反省会
- 11月 完成→印刷



取材の様子



表紙の写真も含め、撮影にも挑戦しました



できあがった初校記事の校正



ビルの谷間に
自然の息吹を
発見

樹木医も太鼓判 豊洲は緑も人もすくすく育つ



樹木医・環境再生医
玉木恭介さん

猿江、大島小松川、亀戸中央公園のコミュニティアテンダント。小学校の課外授業を行うなど、こどもの自然環境教育にも力を注ぐ

私たち編集部は、豊洲の緑をテーマに、環境再生医で樹木医でもある玉木先生と豊洲の街を散策。さらにはちみつプロジェクト、豊洲シビックセンターの里山について取材してきました。担当：田代、山口、今井、林

見事な植栽計画から
見えてきたこの街の未来

「朝と夕方に風が吹く海辺の厳しい環境は、実は植物にとって良い環境なんですよ」と玉木先生。植物がすくすく育つと虫や鳥などが集まり、生命の循環が始まります。植物にとって良い環境とは実は大型の生き物である私たち人間にとっても住みやすい、子育てに適した環境ということなんだそうです。

オオシマザクラ、サトザクラ類、サルスベリ、モチ類、ソコ、クヌギ、夏ミカン、メタセコイア、柳、モミジ類、タブノキ、センペルセコイアなど、少し歩いただけでも樹種も多様性に富んでいると教えていただきました。巨大なマンションの中に日本特有の見事な生垣が作られ、自由に通り抜けが出来る瞑想の小道があったり、近い将来東京では稀にみる素晴らしい環境ができあがるのではとのことでした。

最近あまりイメージの良くないユースもある街ですが、散策してみても花や緑がこの街の健全さを教えてくれた気がします。大都会でもたくさんのどんぐりを発見できます。今度の休日には豊洲の自然を見つけに行きませんか。



探してみよう 瞑想の小道

豊洲3丁目付近

手入れが大変なので、今街中ではほとんど見かけなくなった道の両側に生垣のある小道を発見！昭和にタイムスリップした様な感覚になりました。



シンボルツリー!? 巨大なクスノキ

豊洲3丁目 芝浦工業大学正門右手付近

40年以上前からIHI工場内スーパーの前にあった豊洲一の長老だそう。



集めてみよう どんぐり色々

豊洲1～4丁目付近

豊洲のどんぐりを探してみたら、マテバシイ (写真)、ウバメガシ、シラカシ、コナラ、クヌギの木を見つけました。



夏には満開 サルスベリたち

豊洲3・4丁目付近ほか

夏には色々な花の色で私達を楽しませてくれる種類が豊富なサルスベリ。



花言葉は
「雄弁」
「あなたを信じる」

ひっそりすくすく 育った巨大柳

豊洲3丁目 芝浦工業大学裏手

昔は江東区の街の並木に多く植えられていた柳ですが、強風に弱いという理由で年2回強剪定 (全部葉を落とす) を行ったため、めっきり見かけなくなりました。自然の樹形のまま大きくなった柳は珍しいそうです。

